



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月6日

上場会社名 ソースネクスト株式会社

上場取引所 東

コード番号 4344 URL <http://www.sourcenext.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松田 憲幸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ担当常務執行役員 (氏名) 青山 文彦

TEL 03-6254-5231

四半期報告書提出予定日 2020年8月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,540	45.2	74	19.3	53	37.7	6	88.0
2020年3月期第1四半期	4,638	90.5	91	7.8	85	0.1	55	13.1

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 18百万円 (54.2%) 2020年3月期第1四半期 39百万円 (23.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	0.05	0.05
2020年3月期第1四半期	0.41	0.41

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第1四半期	17,507	12,085	68.3	87.77
2020年3月期	17,029	12,091	70.3	87.88

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 11,957百万円 2020年3月期 11,973百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.25	0.25
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.46	0.46

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,174	28.9	100	72.4	100	71.7	69	64.8	0.51
通期	16,000	7.4	600	26.4	600	11.6	416	85.1	3.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	136,244,800 株	2020年3月期	136,241,200 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	24 株	2020年3月期	24 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	136,241,216 株	2020年3月期1Q	136,162,798 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、(添付資料)「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大が国内外の経済をさらに下振れさせるリスクを含み、個人消費も急速な減少が続くなど極めて厳しい状況にありました。

当社グループを取り巻く環境におきましては、2020年4月～6月のパソコン出荷台数は前年比92.6%と堅調に推移しました(2020年7月、JEITA調べ)。

こうした状況の中、当社グループは、IoT製品やスマートフォン向けアプリ及びパソコンソフトの新規ユーザーの獲得と、マーケットの拡大に取り組んで参りました。

AI通訳機「POCKETALK®(ポケトーク)」は、外出規制・販売店の休業などにより店頭販売や海外旅行者向けの需要が減少したことを受け、AIを相手に英会話練習ができる「会話レッスン機能」の言語に中国語を加え、語学学習ツールとしての「POCKETALK」の活用を前面に推し出しました。これを踏まえ、自社オンラインショップでの拡販に加え、新たに医療機関や外国人労働者を採用する製造業・工場、公共機関などのB to Bチャネルを開拓していくことで、「POCKETALK」の拡販に力を入れて参りました。

また、内閣のテレワーク推進の背景を受けて、当社ではテレワーク関連のソフトウェア・サービス、ハードウェアをスピーディに提供していく方針を打ち出し、自社オンラインショップ上で「テレコレ～TELEWORK COLLECTION」のサイトを公開しました。

「テレコレ」ではテレワークに役立つ様々な製品を紹介しました。新作では、在宅時のウェブ会議用にカメラの背景をワンクリックで変更できる「XSplit VCam(エクスプリットブイカム)」を発売し、好評を得ております。また、在宅ワークやオンライン学習など、自宅でパソコンを利用する方が増えたこともあり、セキュリティ対策ソフト「ZEROスーパーセキュリティ」や、ウェブ会議システム「Zoom」とも連携できるオンラインストレージサービス「Dropbox」などの従来製品が売上に寄与しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、25億40百万円(前期比45.2%減)、売上総利益は14億77百万円(前期比47.5%減)となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、売上の落ち込みによる影響を回避すべく、大幅圧縮を実施しました。

「POCKETALK」では、昨年実施していたTVCMやテレビショッピングへの露出を取りやめることで、広告宣伝費を抑制しました。テレビショッピング実施に伴い発生していたコールセンターへの業務委託費や、その他店頭展開のための販売促進費も削減に努めました。

これにより、販売費及び一般管理費は、16億59百万円(前期比40.9%減)と、大幅に削減することができました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の営業利益は74百万円(前期比19.3%減)、経常利益は53百万円(37.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、6百万円(前期比88.0%減)となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間より、販売チャネルの区分を変更しております。従来「その他」に区分しておりました法人営業を「スマートフォン通信事業者(キャリア)」に追加し、名称を「法人営業」に変更しております。このため、前年同期との比較については、変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

ア) 自社オンラインショップ

当チャネルでは、当社のウェブサイトと併設されたオンラインショップで、「POCKETALK」やソフトウェアを中心に、IoT・ハードウェア等の販売を行っております。

「POCKETALK」は、インバウンド及び海外旅行向けの需要が減少すると見込み、語学学習ツールとしての拡販に注力しました。初心者にも分かりやすく使いやすいうように、操作ガイドDVDを同梱した「POCKETALK エントリーパック」や、語学レッスン動画とのセット販売を展開しました。

「テレコレ」では、在宅ワーカーの増加にあわせて、初めてウェブ会議を行なう方向けにノートPCやワイヤレスイヤホン、「Xsplit Vcam」などをセットにした「Web会議参加セット」などを販売しました。また、ノートパソコンを置く高さを自動的に調節できるラップトップテーブルや、スマートフォンスタンド、無線LAN中継器など、在宅ワークでのデスクトップ周りの環境を整備し、快適にする製品も販売しました。

当四半期ではテレワーク関連の新作に加えて、従来のパソコンソフトの売上が増加しました。中でもセキュリティソフトの「ZEROスーパーセキュリティ」、ウェブ会議などの動画を録画できる「B's動画レコーダー」、オンラインストレージサービスの「Dropbox」、PDFの作成・変換・編集ができる「いきなりPDF Ver.7 COMPLETE」などの売上が拡大しました。

その他、当社サイトでの購入代金に応じてポイントがたまる「ソースネクストeポイント」につきましては、JAL・ANAマイルやT-POINTなどの他社ポイントと交換できるサービスを導入し、ユーザーへの付加価値向上に繋がりました。

この結果、売上高は、13億14百万円(前期比6.4%増)となりました。

イ) 家電量販店

当チャネルでは、主に全国の家電量販店において、個人ユーザー向けのIoT製品及びパソコンソフト等の販売を行なっております。

「POCKETALK S」は、外出規制・販売店の休業などにより店頭販売が減少したものの、6月には語学学習としての利用方法を訴求する動画を店頭で展開し、実売も徐々に回復の兆しが見えてきております。

また、テレワークやオンライン学習の需要が増加したことで、「ZEROウイルスセキュリティ」「ZEROスーパーセキュリティ」などのセキュリティソフトや、タイピングソフトの「特打」シリーズの売上が拡大しました。その他、ゲームソフト「信長の野望」など従来の人気作や、店頭で大型展開を開始した新作「XSplit Vcam」も売上に寄与しました。

このような施策を実施したものの店頭販売の減少を回復させるまでには至らず、売上高は5億55百万円(前期比79.3%減)となりました。

ウ) 法人営業

当チャネルでは、法人向けの「POCKETALK」の販売・レンタル提供や、パソコンソフト・スマートフォンアプリの使い放題サービス等の提供を行なっております。

法人向け「POCKETALK」は、海外旅行者も減少したことから、新規の販売受注は大きく減少しました。既存契約は続いているものの、新規需要が見込めず、減少しております。

大手キャリアへの定額アプリ使い放題サービスへのコンテンツ提供及び販売につきましては、「App Pass(ソフトバンク)」に「Power amp」を提供しました。一部キャリアでは会員数の増加に加えて広告施策が好影響となり、売上の拡大に繋がりました。

既存製品では、格安スマホやSIM関連事業者向けに提供した留守番電話が読めるアプリ「スマート留守電」や「アプリ超ホーダイ」などの月額利用が引き続き堅調に推移しました。

その他、パソコンソフトの法人ライセンス等につきましては、テレワークによりセキュリティソフトの需要が増加したものの、法人企業での在宅テレワーク化が進み、パソコン入替需要が収束したことで、全体的に減少する運びとなりました。

この結果、売上高は6億30百万円(前期比7.1%減)となりました。

エ) その他

その他、海外では米国や欧州の「Amazon」を中心に「POCKETALK」の販売を拡大しております。

当第1四半期連結累計期間では新型コロナウイルスの世界的な流行によって拡販も縮小しておりましたが、米国のSourcnext Inc.を通じて「POCKETALK」を医療機関へ850万台寄付したことが評価され、Newsweek誌「パンデミックにおけるGood company 50社」に選出されました。当社グループは今後も引き続き新型コロナウイルス感染症の対応に必要な支援を続けて参ります。

この結果、売上高は38百万円(前期比11.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比較し4億77百万円増加し、175億7百万円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加16億31百万円、売掛金の減少7億96百万円、現金及び預金の減少7億32百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度末と比較し4億84百万円増加し、54億22百万円となりました。主な要因は、投資有価証券の増加に伴う短期借入金の増加15億円、未払法人税等の納付による減少3億65百万円によるものです。

経営の安定性を示す自己資本比率は、当第1四半期連結会計期間末において68.3%(前連結会計年度末70.3%)と堅調に推移しており、財務の安全性が保持されております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では2020年5月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

当第1四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴いインバウンド需要が減少したことで「POCKETALK」の売上が大きく下がったものの、テレワーク関連の商材投入や付加価値の高いパソコンソフトの提案強化、及び費用の大幅圧縮によって、期初計画を上回り好調に推移しております。

緊急事態宣言解除後も予断を許さない状況ではあるものの、欧州連合(EU)は新型コロナウイルスの収束状況を確認し、7月から日本を含む14カ国からの渡航制限を解除することを発表しました。休業していた店頭営業も少しずつ再開して参りましたので、当社では引き続き顧客、取引先および従業員の安全を第一とし、十分な注意を払いながら、企画・開発・営業活動に努めて参ります。

「POCKETALK」は家電量販店並びに自社オンラインショップでの販売を主軸とし、学校や地方自治体、公共機関を始めとする法人向け営業など、当社の持つ多様な販売チャネルで展開して参ります。

7月には、新作「POCKETALK S Plus」を発売しました。本製品は名刺サイズ、カメラ翻訳搭載の「ポケットークS」の姉妹品です。機能、翻訳性能はまったく同じで、「ポケットークS」に比べて大型化することで、文字の見や

すさ、相手への見せやすさを実現しました。バッテリーの容量を強化したことで長時間利用できるようになっております。

今後も「POCKETALK」のポケットークの開発過程で得た技術を活用し、新しいIoT製品の企画・開発を推し進めます。

第1四半期に国内独占販売権を取得したAI搭載のウェブ会議用カメラ「Meeting Owl（ミーティングオウル）」は、7月より販売を開始しました。360度カメラが搭載された本製品は、AIが発言者を自動認知して画面を切り替える、新しいタイプの会議室用ウェブ会議カメラであることから、一般企業への貸出やセミナーなどを開催する企業など、新たな取引先への提案を実施して参ります。

同時期に国内独占販売権を取得した、空気清浄機「Molekule（モレキュル） Air Mini +」につきましても本年中に自社オンラインショップ並びに法人営業を通じて、国内での販売を開始する予定です。

ソフトウェアビジネスでは、引き続きテレワークの需要に備えて「ZEROウイルスセキュリティ」や「ZEROスーパーセキュリティ」、「いきなりPDF」など主力製品の展開強化に加え、年末の年賀状シーズンに向けて「筆王」「筆まめ」「宛名職人」の3大ブランドの販売を拡大させて参ります。

販売費及び一般管理費におきましては、第1四半期同様に営業活動の範囲や影響を見据えた上で、引き続き効果的な削減を図って参ります。

今後も積極的に自社製品の拡充を推し進めるとともに、世界中から高品質で便利なコンテンツの取得を進めます。製品・サービスは継続的に改善し、利益額・利益率をさらに高めることで、通期の連結業績予想につきましては、前回公表数値と同額を予想しております。

今後、当社業績に影響を与える事象が発生した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,898,678	3,165,755
売掛金	2,362,790	1,566,011
商品及び製品	3,092,616	3,424,276
原材料及び貯蔵品	123,189	115,874
前渡金	1,556,730	1,711,027
その他	484,374	389,298
流動資産合計	11,518,380	10,372,244
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産	437,227	437,370
減価償却累計額	△280,105	△295,532
有形固定資産合計	157,121	141,838
無形固定資産		
ソフトウェア	1,146,007	1,210,931
のれん	293,700	258,790
契約関連無形資産	1,311,100	1,291,725
その他	176,514	219,415
無形固定資産合計	2,927,322	2,980,863
投資その他の資産		
投資有価証券	1,382,432	3,013,649
繰延税金資産	860,035	815,213
その他	184,428	183,786
投資その他の資産合計	2,426,896	4,012,649
固定資産合計	5,511,341	7,135,350
資産合計	17,029,721	17,507,595
負債の部		
流動負債		
買掛金	420,982	496,310
短期借入金	—	1,500,000
1年内返済予定の長期借入金	422,000	422,000
未払金	739,018	651,129
未払法人税等	377,248	12,202
前受収益	1,159,398	1,024,824
賞与引当金	24,472	4,294
返品調整引当金	314,416	58,246
ポイント引当金	165,004	174,910
アフターサービス引当金	18,799	14,332
その他	344,187	337,732
流動負債合計	3,985,529	4,695,983
固定負債		
長期借入金	593,000	487,500
長期前受収益	359,403	238,635
固定負債合計	952,403	726,135
負債合計	4,937,933	5,422,119

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,688,593	3,688,951
資本剰余金	4,268,620	4,268,978
利益剰余金	4,034,956	4,007,562
自己株式	△3	△3
株主資本合計	11,992,168	11,965,489
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4,329	8,837
為替換算調整勘定	△14,789	△16,347
その他の包括利益累計額合計	△19,118	△7,510
新株予約権	118,739	127,496
純資産合計	12,091,788	12,085,475
負債純資産合計	17,029,721	17,507,595

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	4,638,664	2,540,154
売上原価	1,823,660	1,062,551
売上総利益	2,815,003	1,477,602
返品調整引当金繰入額	34,787	58,246
返品調整引当金戻入額	120,858	314,416
差引売上総利益	2,901,074	1,733,773
販売費及び一般管理費	2,809,139	1,659,596
営業利益	91,934	74,176
営業外収益		
受取利息	33	4,652
受取配当金	277	740
その他	89	361
営業外収益合計	401	5,755
営業外費用		
支払利息	1,111	1,814
為替差損	6,070	6,530
持分法による投資損失	—	18,441
その他	32	94
営業外費用合計	7,214	26,880
経常利益	85,121	53,051
特別利益		
関係会社株式売却益	28,273	—
特別利益合計	28,273	—
税金等調整前四半期純利益	113,394	53,051
法人税、住民税及び事業税	102,836	7,339
法人税等調整額	△45,193	39,045
法人税等合計	57,643	46,385
四半期純利益	55,750	6,666
親会社株主に帰属する四半期純利益	55,750	6,666

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	55,750	6,666
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,024	13,166
為替換算調整勘定	△12,822	△1,558
その他の包括利益合計	△15,846	11,608
四半期包括利益	39,903	18,274
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,903	18,274
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。